

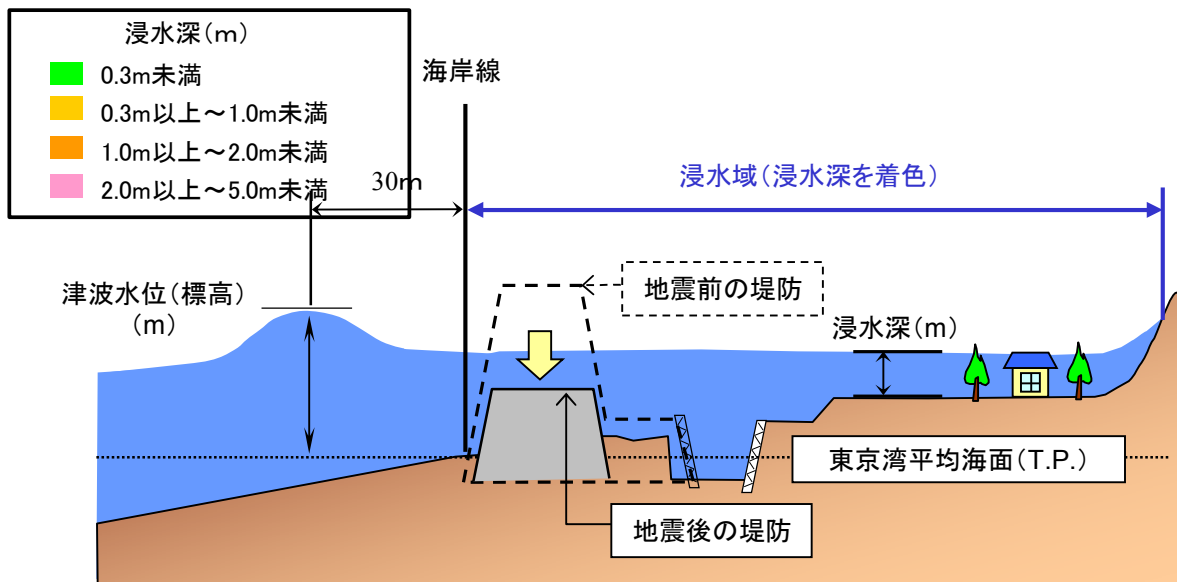
津波浸水想定の記事事項及び用語の解説

(1) 記事事項

- ① 浸水域
- ② 浸水深
- ③ 留意事項

(2) 用語の解説

- ① 浸水域について
海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される区域。
- ② 浸水深について
陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。



- ・津波浸水想定の今後の活用を念頭に、上記のような凡例で表示。
- ・日本の土地の高さ(標高)は、東京湾の平均海面を基準(標高0m)として測られています。津波水位(標高)は、この東京湾平均海面からの高さを示しています。

浸水域と浸水深の模式図

留意事項

- この想定は福岡県が平成 28 年 2 月に発表した「津波浸水想定」に基づき作成しました。
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成 23 年法律第 123 号）第 8 条第 1 項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。
- 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることもあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。
- 地盤の低いところでは、地震によって堤防が沈下・損壊することで、潮汐により津波が到達する前に浸水が始まる場合があります。津波の到達時間にかかわらず、早めの避難行動を心掛けてください。
- この浸水想定図は、想定される複数の津波による最大の浸水域、浸水深を表したものです。
- 今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性があります。

